			<b>叙</b> 育サ	F究業績	Į				
								·	5月1日
		TT 100 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			氏名	ı		張森	
研究分野 経営学								学位	
		<u>压自于</u>	研究のき	テーワード			博士	(商学)	
	論、人的資源	原管理、倫理的			ンティマ	゚゚゚゚゚゙゚゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゚゚゙゚ヹ゚゚゚゚゙゙゙゙゚゚゚゙゚゚゙	、イノベ	ーション	
	育 上	の能		12	関		る 事		
事	項		年	月日		概		<u> </u>	要
1 教育方法の実践例									
2 作成した教科書,教	材								
to the terms and the									
3 教育上の能力に関す	る大学等の記	平価							
4 実務の経験を有する	者についての	の特記事項			†				
5 その他									
प्रकार	发 L	<i>P</i> ++	· 〈生	17	月日	+	z <del>-</del>	रं रह	
	<u></u> 上	の 集	1	に 	関		る事		# <del>*</del>
1 資格, 免許	項		年.	月日	1	概			要
· 具作,兀叫									
2 特許等			1						
	#.l~ - \ : - :	n # == ===			<u> </u>				
3 実務の経験を有する	者についての	り特記事項							
4 その他					<u> </u>				
	究業	績	1	に関		する	事	項	
	単著・	発行又は	発行的	f,発表雑 <b>i</b>	志等	する	事概	項	要
研	774 <del>111-</del>	発行又は	発行的		志等	<i>†</i> 2	•	項	要
研 著書,学術論文等の名称 (著書)	単著・	発行又は	発行的	f,発表雑 <b>i</b>	志等	する	•	項	要
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文)	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所又は発	f,発表雑詞表学会等の	志等 名称		概		
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究	単著・共著の別	発行又は	発行所又は発	f,発表雑 <b>i</b>	志等 名称	心理学や組みを	概組織行動論動の先行委	の領域には	おいて、プロア を検討する研究
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所又は発	f,発表雑詞表学会等の	志等 名称	心理学や約クティブ行が散見され	概 組織行動論動の先行要 いるが、個別	の領域には要と結果を	おいて、プロア を検討する研究 識に注目する
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所又は発	f,発表雑詞表学会等の	志等 名称	心理学や約 クティブ行 が散見され 文献がわから 流がわから	概 組織行動論動の先行要ない、最近プロシスをいという	の領域には を因と結果を 別の問題意 ロアクティブ:	おいて、プロア を検討する研究 識に注目する 行動の研究潮 である。そこで、
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所又は発	f,発表雑詞表学会等の	志等 名称	心理学や約 クティブ行 が散見され 文献がわから 本稿は201 ティブ行動	概 組織行動論 動の先行 いるが、 してい いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる	の領域には を因と結果を 別の問題意 アクティブ のが現状 20年7月ま レビューし、	おいて、プロア を検討する研究 識に注目する 行動の研究潮 である。そこで、 でのプロアク 近年の研究焦
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所又は発	f,発表雑詞表学会等の	志等 名称	心理学や行 が 対 が 前 が 初 が 初 が わ が お が わ が は る が も が も が も が も が も が も る う い も い も い も に う に り た ら ら り に と ら ら ら ら り に と ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	概 組織行動論を加えている最近というとしているとしているというとしているというとしているとしているとしているとしているとしているとしているとしているとしている	の領域には を因と結果で 別の問題ブラインで ののが現状で のの年7月まいた。 みた。さらに	おいて、プロアを検討する研究 識に注目する 行動のみそこで、 でののプロ研究第 でののプロ研究集 、整理した文
研 著書,学術論文等の名称 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究 のレビュー(査読付)	単著・共著の別単著	発行又は 発表の年月 R3.3.1	発行所又は発	f,発表雑語 表学会等の <b>対紀要第92<sup>4</sup></b>	志等名称	心クが文流が高される。 で行うない。 で行うない。 でででででででででででででいる。 ででででででででででいる。 でででででででいる。 でででででいる。 でででででいる。 でででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 ででででいる。 でででいる。 でででいる。 ででいる。 でい。 でいる。	概 組織のが、近という は、いからを は、いからを は、いからを は、からな がった。 はないから を は、から を は、から と が が が が が が が が が が が が が が が が が が	の領域には を因と結果で 別の問題づ のが現状で 20年7月ま がみた。さらに 引題を基に、	おいて、プロアを検討する研究 護に注目する 行動のみそでののそでのののでのののでのののでのののでのでのでのでのでのでのでいた。 を選集した。 を登り、こ、今後の課題と
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所 又は発 <b>商学研究</b> 和	f,発表雑語 表学会等の <b>対紀要第92<sup>4</sup></b>	志等 名称	心クが文流が高されるでのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	概 組織のが近というとは、 新子間でいる。 はいいらる はいからを がったいからな はま 製 がまま かった は 製 に いっと は 表 が は 出 動 に いっと は 表 が に いっと は ま かっと は 制 に いっと は いっと は いっと は ま かっと は いっと は れ いっと は いっと いと は いっと は い	の領域には を因と結果で 別の問題で が現状で 20年7月よい みた。 発(NPD)チャー	おいて、プロア を検討する でである。 である。 でののそアク までのの年理での で近年 を を を を を を を を の の の の の の の の の の の
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究 のレビュー(査読付) 2. Orchestrating Innovation: Diversity of Team Characteristics in the	単著・共著の別単著	発行又は 発表の年月 R3.3.1	発行所 又は発 <b>商学研究</b> 和	「,発表雑訂表学会等の	志等 名称	心力が文流本テ点献研本様影響では、一次では、一次では、一次ででででででででででででででででででででででででで	概 組織のが、近くな年のというというには、	の領域は 原因の問うで で のので のので のので のので のので のので のので	おはないでは、 おはないでは、 おはないででいます。 ででいます。 ででいます。 ででいます。 ででいます。 ででいます。 ででいまする。 ででいまする。 ででいまする。 でいまる。 でいまる。 でいまる。 でいまる。 でいまな。 でいまる。 でいな。 でいな。 でいまる。 でいまる。 でいまる。 でいな。 でいな。 でいまる。 でいまる。 でいまる。 でい。
研 著書,学術論文等の名称 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究 のレビュー(査読付) 2. Orchestrating Innovation: Diversity of Team	単著・共著の別単著	発行又は 発表の年月 R3.3.1	発行所 又は発 <b>商学研究</b> 和	「,発表雑訂表学会等の	志等 名称	心クが文流本テ点献研本様影意学ブ見がわは7結明方究がす決でのでのではでいます。 かんこう かんこう かんこう かんこう かんこう かんこう かんこう かんしょう かんしょく かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	概 組織のが最いとと 動いではいのでは、 動がではいのでは、 動がでは、 動ができますが、 動ができますが、 はいのできますが、 はいのできますが、 はいというできますが、 はいというできますが、 はいというできますが、 はいというできますが、 はいというできますが、 はいというできますが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまが、 はいまがり、 はいまがは、 はいまが、 はいまがなが、 はいまがもが、 はいまがなが、 はいまがなが、 はいまがなが、	には (の領と結題では、 (のの問うでは、 (のでは、)。 (のでは、 (のでは、)。 (の	おはない。 おはないでででいます。 おはないでででいます。 でででででいます。 でででいますりでででいます。 はないでででいます。 はないでは、 はないではないでは、 はないとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はな。 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はな。 はなとは、 はなとは、 はなとは、 はな。 はなとは、 はなとは、 もなとは、 もなとは、 もなとは、 もなとは、 もなと。 もなと。 もなと。 もなと。 もと。 もと。 もと。 もと。 もと。 もと。 もと。 もと。 もと。 も
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究 のレビュー(査読付) 2. Orchestrating Innovation: Diversity of Team Characteristics in the Symphony of New Product	単著・共著の別単著	発行又は 発表の年月 R3.3.1	発行所 又は発 <b>商学研究</b> 和	「,発表雑訂表学会等の	志等 名称	心クが文流本テ点献研本様影意う年世子教献が稿づ結明方究がす決つ多学が見がわは201計の名字の手でのの様ででのの様ででの手である。	概 組動 織のが 最いのが 最いのが 最いのが 最いのが 最いので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいので はいのが はいがに はいのので はいのので はいのので はいのので はいのので はいのので はいので	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	おはない。 おはないででででいる。 おはないででででいる。 では、 ででででででいる。 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいる。 でいる。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究 のレビュー(査読付) 2. Orchestrating Innovation: Diversity of Team Characteristics in the Symphony of New Product	単著・共著の別単著	発行又は 発表の年月 R3.3.1	発行所 又は発 <b>商学研究</b> 和	「,発表雑訂表学会等の	志等 名称	心クが文流本テ点献研本様影意う年にですが対対が文流本テ点献研本様影意二齢ではいるでのでは、からないである。 からない はい かんしょう かんしょく かんしん かんしょく かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	概 組動 織のが 最いな はな はな はな はな はな はな はな はな はな は	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	おはない。 おはないでは、 ででででででいる。 でででででででいる。 ででででででででいる。 でででででででででで
研 著書,学術論文等の名形 (著書) (学術論文) 1. プロアクティブ行動の先 行要因と結果に関する研究 のレビュー(査読付) 2. Orchestrating Innovation: Diversity of Team Characteristics in the Symphony of New Product	単著・共著の別単著	発行又は 発表の年月 R3.3.1	発行所 又は発 <b>商学研究</b> 和	「,発表雑訂表学会等の	志等 名称	心クが文流本テ点献研本様影意う年に界分や行さる。 いっかな 一次	概 組動のが長いな年新業や里論がないた。 動うではいるでは、 動うでは、 動うでは、 動うでは、 動うでは、 しまれる。 はいのでは、 しまれる。 はいのでは、	でいる。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	おは はな には には には には には には には にい には にい にい にい にい にい にい にい にい にい にい

3. A Fault Confessed is Half Redressed: The Impact of Deviant Workplace Behavior on Proactive Behavior (査読付)	共著	R6.7.1	Administrative Sciences,14(7), 141.	従来の職場逸脱行動研究は主に「被害者中心」の視点から結果を検討し、行為者の心理的・行動的反応を無視してきた。本研究は道徳的浄化理論に基づき「加害者中心」の視点を採用し、職場逸脱行動後に従業員が道徳的欠損を経験し、その結果主体的行動につながると主張する。また、この間接的関係は個人の道徳的勇気によりモデレートされると提案する。英国での実験研究と米国での複数時点調査によりこれらの仮説が支持された。本研究は職場逸脱行動がいかにして、またいつ補償的行動につながるかを示し、理論的貢献と実務的示唆を提供する。
4. How Does Employee Voice Influence Empowering Leadership? The Effects of Voice Tactics and Gender (査 読付)	共著	R6.8.1	Asian Journal of Social Psychology, 27(4), 827-843.	本研究は従業員の理性的および感情的なvoice 行動がリーダーのエンパワーリーダーシップに与える影響を明らかにした。シグナリング理論と役割ベースのフォロワーシップ理論に基づき、従業員の voice 行動の戦術に注目した。理性的な voice 行動が感情的なものより、部下の主動性についてのリーダーの帰属を高め、エンパワーメントリーダーシップを導きやすいと仮説を立てた。さらに、期待違反理論に基づき、この効果が特に女性部下の場合に顕著であると予測した。日本とイギリスでシナリオベースの実験を行った結果、全ての仮説が支持された。
5. Team Familiarity, Task Familiarity, and Quality Competition: Evidence from Japanese Sake Brewing (査読 付)	共著	R7.1.1	Journal of Wine Economics, 20(1), 49–67.	この研究は 1956 年から 2018 年までの日本酒業界における醸造チームと品質競争結果の縦断的データを分析し、チーム馴染みと作業馴染みが優れた酒造りに与える影響を検証するものである。日本酒生産はすべての段階でチームワークを必要とするが、長期間一緒に働くチームもあれば、人員の入れ替わりが激しいチームもある。結果として、チーム馴染みと作業馴染みの両方の増加は品質優位性と負の関連があることが示された。
6. Managerial Voice Endorsement of Subordinate's Coalition Voice Tactics: The Moderating Role of Performance History (査読付)	単著	R4.12.1	2022 Academy of International Business Asia Pacific Regional Conference Proceedings	部下の連携型の voice 行動とそれに対する上司の支持との関係性について実証的に検討した。
7. How Does Employee Voice Influence Empowering Leadership? The Roles of Voice Tactics and Gender (査	共著	2023 年 8 月	Academy of Management Annual Meeting Proceedings	従業員の voice 行動と性別がエンパワリング・リー ダーシップに与える影響について分析した。
読付) 8. From Beneficial to Harmful: The Effects of Voice Endorsement on Employee's Cyberloafing(査読付)	共著	2023 年 12月	2023 Academy of International Business Asia Pacific Regional Conference Proceedings	リーダーが従業員の voice 行動に支持を示すことが、従業員の私的なインターネット利用(サイバーローフィング)を増加させる可能性について実証的に検討した。
9. Endorsement of High Performers' Voice: The Role of Voice Tactic and Supervisor's Power Motivation (香読付)	単著	2024年 8月	Academy of Management Annual Meeting Proceedings	高業績者の voice 行動が、どのような状況下においてリーダーの支持を得られなくなるのかについて分析した。
10. Team Familiarity, Task Familiarity, and Product Innovation: Evidence from Japanese Sake Brewing (査読 付)	共著	2024年 8月	Academy of Management Annual Meeting Proceedings	日本酒のデータベースを用いて、チーム馴染みと作業馴染みがチームパフォーマンスに与える 影響検討した。
11. The Prohibitive Voice Dilemma: When Direct Prohibitive Voice Backfires and How LMX Saves It? (査読 付)	共著	R6.12.1		部下による直接的な prohibitive voice に対する リーダーの反応について検討した。
12. Building Bridges or Barriers? The Role of Community Culture in Online Knowledge Sharing (査読付)	共著	2024年 12月	Business Asia Pacific Regional	オンラインコミュニティの文化的特性が参加者の知識共有意欲にどのように影響を与えるかについて検討した。

13. Friend or Foe: How Online Community Culture Shapes Knowledge Sharing Through Psychological Safety (査読付)	共著	2025年 7月	Academy of Management Annual Meeting Proceedings	オンラインコミュニティの文化的特性が参加者 の 知識共有意欲にどのように影響を与えるか について検討した。
14. Gender Shapes Observers' Responses to Coworkers' Unethical Pro- Organizational Behavior (査読付)	共著	2025年 7月	Academy of Management Annual Meeting Proceedings	同僚による非倫理的な向社会行動に対する反応における性差について考察した。
15. Fostering knowledge exchange in online communities: A cultural and psychological approach (査読付)	共著	2025年 9月	British Academy of Management 2025 Conference Proceedings	オンラインコミュニティの文化的特性が参加者 の知識共有意欲にどのように影響を与えるか について検討した。
(その他) 1. 日本における部下の「Voice 行動」の直接性とリーダーのパフォーマンス評価の関係について- 帰属理論と LMX 理論の視点から(大会優秀賞)	単著	2021年 9月	経営行動科学学会第24回年 次大会	帰属理論と LMX 理論に着目し、部下の voice 行動の直接性とリーダーのパフォーマンス評価 の関係を報告した。
2. The Determinants of Supervisors' Empowering Behaviors in Japan: The Role of Voice Tactics and Gender (査読付)	共著	2022年 10月	The 38th Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA) Annual Conference	従業員の voice 行動と性別がエンパワリング・リーダーシップに与える影響について分析した。
3. When and How a High Performer's Voice Links to Less Endorsement: The Effects of Coalition Voice and Supervisor's Power Motivation (Ph.D. Award) (査読付)	単著	2023年 11月	The 39th Euro-Asia Management Studies Association Annual Conference	高業績者の voice 行動が、どのような状況下においてリーダーの支持を得られなくなるのかについて分析した。
4. A Fault Confessed is Half Redressed: The Impact of Deviant Workplace Behavior on Proactive Behavior(査読	共著	2024年 5月	Journal of Management Studies Workshop- Japan 2024	従業員の職場逸脱行動がその後の従業員のプロアクティブ行動に及ぼす影響について報告した。
付) 5. Unfamiliar Paths to Excellence: The Role of Team and Task Familiarity in Sake Brewing Innovation	共著	2024年 9月	2025年度組織学会年次大会 Special International Research Session	日本酒のデータベースを用いて、チーム馴染みと作業馴染みがチームパフォーマンスに与える 影響を検討した。
6. Beyond Good Intentions: Investigating the Negative Consequences of Direct Prohibitive Voice (査読付)	共著	2025年 5月	The 22nd European Congress of Work and Organisational Psychology	部下による直接的なprohibitive voiceに対する リーダーの反応について検討した。
7. オンラインコミュニティにおける知識共有行動の促進要因に関する体系的考	共著	2025年 9月	産業組織心理学会第40回大 会	オンラインコミュニティの文化的特性が参加者 知識共有意欲に与える影響についての文献を レビューした。
8. Examining managerial responses to direct prohibitive voice	共著	2025年 9月	産業組織心理学会第40回大 会	部下による直接的なprohibitive voiceに対する リーダーの反応について検討した。